



# キノドー水和剤40

農林水産省登録 第8086号

1/3

平成31年4月10日現在

## 適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希 釈 倍 数 又は使用量	使用液量	使用時期	本 剤 の 使用回数	使用方法	有 機 銅 を 含む農薬の 総使用回数
りんご	黒星病 斑点落葉病 黒点病	500～800倍	200～700ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	7回以内(塗布 は3回以内、散 布は4回以内)
かき	炭疽病 うどんこ病 落葉病	500倍			5回以内		8回以内(塗布 は3回以内、散 布は5回以内)
なし	黒斑病 黒星病	800～1000倍		収穫 3 日前まで	9回以内		12回以内(塗布 は3回以内、散 布は9回以内)
	輪紋病	600～800倍					
もも	縮葉病	500～800倍		発芽前～開花直前 まで 但し、 収穫60日前まで	5回以内		8回以内(塗布 は3回以内、散 布は5回以内)
ネクタリン		700～800倍					
みかん	黒点病	400～500倍		収穫30日前まで			5回以内
	そうか病 黄斑病	500倍					
ぶどう	べと病 枝膨病	600倍		収穫45日前まで	4 回以内 (開花後は 1 回)		7回以内(塗布 は3回以内、散 布は4回以内 (但し、開花後 は1回以内))
	黒とう病	600～800倍					
ホップ	べと病	600倍	3回以内			3回以内	
メロン	べと病 炭疽病	800～1000倍	100～300ℓ/10a	収穫10日前まで	5回以内	散布	5回以内
	斑点細菌病	600～800倍					
	果実汚斑細菌病	800倍					
すいか	べと病 炭疽病	800～1000倍		収穫 7 日前まで	3回以内	3回以内	
	果実汚斑細菌病	800倍					
かぼちゃ	べと病 炭疽病	800～1000倍		収穫30日前まで	5回以内	5回以内	
はくさい	軟腐病	800倍		収穫21日前まで			
	腐敗病	600～800倍					
レタス	斑点細菌病 軟腐病 べと病	600倍		収穫14日前まで	8回以内	8回以内	
やまのいも	葉渋病						
こんにゃく	腐敗病 葉枯病	500～600倍		収穫30日前まで	3回以内	3回以内	
キャベツ	黒腐病	500～800倍					
ブロッコリー	黒腐病 黒斑細菌病	800倍		収穫前日まで	5回以内	5回以内	
たまねぎ	軟腐病	600倍					
きゅうり	斑点細菌病	600～800倍		4回以内	株元散布	4回以内	
	べと病 炭疽病	800～1000倍					
しそ	斑点病	1000倍		根雪前	3回以内	散布	5回以内
芝	雪腐病	100～200倍	発病初期	4回以内	葉柄基部散布		
シクラメン	葉腐細菌病	5倍		2～5mℓ/株	8回以内	灌注 散布	8回以内
せんりょう	立枯病	1000倍		3ℓ/m <sup>2</sup>			
	炭疽病	800倍		100～500ℓ/10a			



アグロ カネショウ株式会社

<https://www.agrokanesho.co.jp/>



# キノンドー水和剤40

農林水産省登録 第8086号

2/3

平成31年4月10日現在

## 適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	有機銅を 含む農薬の 総使用回数
麦類 (小麦を除く)	雪腐病	200~400倍	100~200ℓ/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内
小麦	斑葉病 なまぐさ黒穂病	10倍	—	は種前	1回	20分~1時 間種子浸漬	5回以内(種 子への処理は 1回以内)
		100倍				6~12時間 種子浸漬	
		乾燥種子 重量の0.5%				種子粉衣	
まつ	葉ふるい病	500倍	200~700ℓ/10a	生育期	4回以内	散布	4回以内



アグロ カネショウ株式会社

<https://www.agrokanesho.co.jp/>



## △ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。
- 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤等との混用はさける。
- 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生の多くないうちに発生初期から1～2週間おきに予防的に散布する。
- 本剤をりんごの病害防除に使用する場合は、サビ果の発生を多くすることがあるので、落花直後から落花20日頃までの使用はさける。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意する。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意する。
- もも及びネクタリンの縮葉病防除に使用する場合には、発芽直前及び開花直前にかけむらのないように樹全体に十分散布する（休眠期散布）。展葉後は薬害のおそれがあるので散布しない。
- ぶどうのべと病に対しては、多発時には効果が不十分な場合もあるので、なるべく発生初期に予防的に散布する。なお、ぶどうでは果実肥大期（あずき粒大）以降の散布は、サビ果や果房の汚れを生じるおそれがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布はさける。
- はくさい・たまねぎの軟腐病、レタスの軟腐病・腐敗病・斑点細菌病、きゅうり・メロンの斑点細菌病、キャベツ・ブロッコリーの黒腐病、こんにゃくの腐敗病・葉枯病、シクラメンの葉腐細菌病などの細菌性病害防除に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布する。
- きゅうりに使用する場合、収穫間際の散布では果実に汚れを生じることがあるので注意する。
- しその斑点病に使用する場合、薬液による汚れが生じるので、葉にかからないように株元に散布する。
- うり類に対する薬害は無機の銅剤に比べて少ないが、なお幼苗期・高温時には注意して散布し、過度の連用はさける。
- シクラメンの葉腐細菌病に使用する場合は、薬液による汚れが生じるので、葉及び花卉にかからないように注意する。
- せんりょうの炭疽病防除に使用する場合、着果数が減少するおそれがあるので、開花時期の散布はさける。また、薬剤による汚れが残るおそれがあるので、出荷間際には使用しない。
- 麦の雪腐病の防除に使用する場合、なるべく根雪近くの晴天の日を選んで10アール当たり100～200Lを散布する。
- 小麦の種子消毒に使用する場合
  - ① 種子浸漬処理の場合は浸漬後、水洗いせずに風乾してから播種する。
  - ② 種子粉衣処理の場合は播種前に適当な容器の中で本剤の所定量が均一に乾燥種子につくように少量ずつついでにまぶす。
- 芝の雪腐病防除には、薬量として平方メートル当たり5gをなるべく根雪近くに散布する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

## △ 安全使用上の注意



- 誤飲、誤食などのないよう注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- 街路、公園等で使用する場合、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。  
水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。  
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

